

# 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

### 農事組合法人「大向営農組合」 代表理事

## 平川 正己さん

「大向地区の農地を守るために、日吉町でもいち早く法人化した。目的達成には、法人経営の維持・発展が必要。生産・販売に加え、農産物の加工で付加価値を高める。これを車の両輪として経営に取り組んでいる」と力を込めて話すのは、南丹市日吉町殿田の「農事組合法人 大向営農組合」代表理事の平川正己さん(67)だ。

# 加工で高付加価値を



▶道の駅「スプリングスひよし」で加工品販売に力を入れる平川さん

るのか相当な覚悟が必要だった」と振り返る。

前身の任意組合の時代から、水稻の生産・販売や農作業受託などに取り組んできたが、地区全体でも農地は6・7畝と小規模。農産物の生産・販売だけでは厳しいと考えていた。

そこで着目したのは、以前から女性部が取り組んでいた壬生菜の漬物など加工品。「格好の売り場として、日吉ダムの温泉施設に道の駅『スプリングスひよし』がある。これを見逃す手はない」と平

川さんは話す。

同法人では、採種用の新丹波黒大豆を全量J A京都へ出荷する他、水稻を中心に農産物を生産する。地場農産物を加工品として販売し、付加価値を高める。加工品作りは組合員の女性が行うことで、地域が元気になり、農地も守ることができるという経営戦略だ。

加工品作りは、集荷場を改修して設置した調理室で、加工部の女性6人が行う。現在は、同地区の伝統食である納豆餅や巻き寿司(ずし)、鯖(さば)寿司などを道の駅に卸す他、町内外からの注文を受けて仕出し弁当やオードブルまで販売する。毎週月曜日には、同市役所の敷地内で昼食弁当を500円で販売し、用意した30食も、すぐに売り切れる人気だ。

平川さんは「課題は農業の生産現場だけでなく、法人経営の後継者づくりだ。3月に『京都丹波高原国定公園』が誕生し、道の駅の人気はさらに高まると見込んでいる。集荷場を食堂に改築してダム施設に向かう客を取り込み、大向の農産物を堪能してもらう構想を持っている」と語る。

「市では空き家バンクでI・J・Uターンや一世代超えた孫ターンに取り組んでいるが、法人が雇用の場となれば定住を促すことができ、後継者確保にもつながると期待している」と熱意を込める。

■法人所在地 南丹市日吉町殿田 大向110の3。(電)0771(72)0607(平川さん方)。

■法人概要 2007年4月設立。理事4人、監査役2人。パートタイマーは加工6人、農作業15人、オペレーター5人(全て組合員)。主な農産物は新丹波黒大豆(採種用)60㍏、水稻が主食用米2㍏、酒造用掛け米60㍏、もち米18㍏。農機はコンバイン、田植え機、耕運機、大豆用脱穀機各1台とトラクター3台。集出荷場1棟103平方㍏(うち調理室40平方㍏)。